

紹介

浅見和彦・伊東玉美・内田澄子・葛尾和宏・松本麻子編

『古事談抄全釈』

佐藤 信 一

『古事談抄』というのは、寡聞にして聞き慣れない名であるが、当該『古事談抄全釈』に付された帯に依れば、『古事談抄』とは、『古事談』巻第二、臣節（しんせつ）からの抜き書き的性格を持つ説話集である。目次を掲出しておく。

口絵…『古事談抄』（穂久邇文庫蔵）

- 一 忠平の檳榔の事
- 二 師輔遺誠、不信の聳天命の事
- 三・四 朝成、大納言を望みて生霊と為る事
- 五 道長、伊周の牛の逸物を評する事
- 六 道長、遊女を召す事
- 七 法成寺金堂供養の日、道長感慨の事
- 八 行経、藏人頭の上に座すの事
- 九 隆国、小馬に乗る事
- 一〇 八幡別当清成、宇治殿に参りて飲食の事
- 一一 俊房、忠実を賞翫する事

一二 忠実少年の時、師実より大小の鷹狩装束に就いて教示の事

- 一三 忠実、朔日の御精進を鳥羽院に奏する事
- 一四 忠実、顕雅に感ずる事
- 一五 忠実、兼長を勸発の事
- 一六 忠実、師遠に感ずる事
- 一七 忠実、急速の召しの時、衣装夏冬を論ずべからざる事を師元に告ぐる事

一八 忠実、自賛の事
七〇

『古事談抄』解説

- 1 『古事談』について
- 2 『古事談抄』について
- 3 『古事談抄』と『古事談』の本文について
- 4 主要参考文献

穂久邇文庫蔵『古事談抄』（影印）

あとがき

執筆者紹介

第一次担当者一覧 『古事談抄』選釈（成蹊人文研究）掲載人名・地名・神仏名等索引

説話のタイトルの提示は一八話までで留め、後は省略した。ただ、ここからだけでも、『古事談抄』の世界が如何に豊饒なものであるかが、窺い知られるであろう。道長や伊周といった馴染み深い人名が出て来る。

この注釈は浅見氏を中心として成蹊大学での輪読会で練り上げられたものであるようだ。担当者の中に本学の卒業生である櫻田芳子・渡辺麻衣子氏の名前を見出すことが出来たのは、自分にとって望外の幸いであった。

最初から見て行くと「一〇 八幡別当清成、宇治殿に参りて飲食の事」は、伊東氏と櫻田氏の共同執筆、「一六 忠実、師遠に感ずる事」は、伊東氏、「二一 忠通、節会にあげまきを貝に懸けて食ひ給ふ事」は、櫻田氏、「三一 経信、北野社前にて下車せざるの事」は、渡辺氏、「四一 九条顕頼、床子座に於いて夜食の事」、「四四 業房亀王、吉夢の事」、「四六 伊周配流の事」、「五九 基房・兼実、賭弓奏の装束の事」、「六五 伊周配流の事」は、伊東氏が担当されている。

また、注釈の形式から言うと、「古事談抄」の各話に通し番号を付し、現代思潮社刊の『古事談』の番号と、岩波書店刊の新大系本の通し番号と各巻毎の番号が（ ）で示されている。また、各話は釈文／本文／校異／口語訳／語釈／余説／同話・類話／参考文献の順に構成されており、何れも懇切丁寧なものになっている。

この『古事談抄全釈』の刊行により、中世説話研究が一層の発展を遂げるであろうことを信じて疑わない。

(二〇一〇年三月三十一日刊 A5判 五二〇頁 笠間書院)